



RTMT でのアラート設定

RTMT では、あらかじめ設定されているアラートとカスタム アラートの両方が Alert Central に表示されます。RTMT では、アラートは [System] タブ、[CUP] タブ、[Custom] タブに整理されます。どちらの種類のアラートも設定できますが、あらかじめ設定されているアラートは削除できません。あらかじめ設定されているアラートやユーザ定義のアラートを RTMT で無効にすることができます。

あらかじめ設定されているアラート、アラートのカスタマイゼーション、およびアラートを設定できるアラート アクション フィールドについては、『Cisco Unified CallManager Serviceability システムガイド』の「アラート」を参照してください。

アクティブにされているサービスが稼働状態から停止状態になると、RTMT によりアラートが生成されます。Alert Central を使用して、RTMT によって生成されるアラートの状況と履歴を表示できます。

この章は、次の項で構成されています。

- [アラートの操作 \(P.8-2\)](#)
- [アラート プロパティの設定 \(P.8-4\)](#)
- [Cisco Unified Presence ノードまたはクラスタ上のアラートの一時停止 \(P.8-7\)](#)
- [アラート通知用電子メールの設定 \(P.8-8\)](#)
- [アラート アクションの設定 \(P.8-8\)](#)

アラートの操作

次の手順を実行して、Alert Central へのアクセス、アラート情報のソート、アラートの有効化、無効化、削除、アラートのクリア、またはアラート詳細の表示などの操作を実行できます。

手順

ステップ 1 次のいずれかの操作を実行します。

- [Quick Launch Channel] で、次の操作を実行します。
 - [System] をクリックします。
 - ツリー階層で、[Tools] をダブルクリックします。
 - [Alert Central] アイコンをクリックします。
- [System] > [Tools] > [Alert] > [Alert Central] の順に選択します。

[Alert Central] モニタリング ウィンドウが表示され、アラートのステータスとシステムが生成したアラートの履歴が表示されます。

ステップ 2 次のいずれかの操作を実行します。

- アラートのプロパティを設定する場合は、P.8-4 の「アラート プロパティの設定」を参照してください。
- Cisco Unified Presence ノードのアラートを一時停止する場合は、P.8-7 の「Cisco Unified Presence ノードまたはクラスタ上のアラートの一時停止」を参照してください。
- アラートの電子メール通知を設定する場合は、P.8-8 の「アラート通知用電子メールの設定」を参照してください。
- アラート アクションを設定する場合は、P.8-8 の「アラート アクションの設定」を参照してください。
- [Alert Status] ペイン内のアラート情報をソートする場合は、列見出しで上向き矢印または下向き矢印をクリックします。たとえば、[Enabled] 列や [InSafeRange] 列の上向き矢印または下向き矢印をクリックします。
- [Alert History] ペインの列の上向き矢印または下向き矢印をクリックすると、アラート履歴情報をソートできます。ペインに表示されていないアラート履歴を表示するには、[Alert History] ペインの右側にあるスクロールバーを使用します。
- アラートを有効化、無効化、または削除するには、次のいずれかの操作を実行します。
 - [Alert Status] ウィンドウで、アラートを右クリックし、目的の操作に応じて、[Disable/Enable Alert] (オプション トグル) または [Remove Alert] を選択します。
 - [Alert Status] ウィンドウでアラートを強調表示し、[System] > [Tools] > [Alert] > [Disable/Enable (または Remove) Alert] の順に選択します。



ヒント ユーザ定義のアラートに限り、RTMT から削除できます。あらかじめ設定されているアラートを選択すると、[Remove Alert] オプションがグレー表示されます。

- アラートを解決した後、アラートを個別に、またはまとめてクリアするには、次のいずれかの操作を実行します。
 - [Alert Status] ウィンドウが表示されたら、アラートを右クリックし、[Clear Alert] (または [Clear All Alerts]) を選択します。
 - [Alert Status] ウィンドウでアラートを強調表示し、[System] > [Tools] > [Alert] > [Clear Alert] (または [Clear All Alerts]) の順に選択します。

アラートをクリアすると、アラートの色が赤から黒に変わります。

- アラートの詳細を表示するには、次のいずれかの操作を実行します。
 - [Alert Status] ウィンドウが表示されたら、アラートを右クリックし、[Alert Details] を選択します。
 - [Alert Status] ウィンドウでアラートを強調表示し、[System] > [Tools] > [Alert] > [Alert Details] の順に選択します。

**ヒント**

アラートの詳細を確認したら、[OK] をクリックします。

追加情報

P.8-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

アラート プロパティの設定

アラートプロパティを設定する手順は、次のとおりです。

手順

-
- ステップ 1** P.8-2 の「アラートの操作」の説明に従って、Alert Central を表示します。
- ステップ 2** [Alert Status] ウィンドウで、アラートプロパティを設定するアラートをクリックします。
- ステップ 3** 次のいずれかの操作を実行します。

- アラートを右クリックし、[Set Alert/Properties] を選択します。
- [System] > [Tools] > [Alert] > [Set Alert/Properties] の順に選択します。



(注) Cisco Unified Presence のクラスタ全体のアラートの場合は、[Alert Properties] ウィンドウに [Enable/Disable this alert on following server(s):] ボックスが表示されません。クラスタ全体のアラートには、登録済みの電話機の数、ゲートウェイの数、メディア デバイスの数、すべて使用されたルート リスト、すべて使用されたメディア リスト、稼働していない MGCP D チャネル、悪意のあるコールのトレース、および限度を超えている品質レポートが含まれます。

- ステップ 4** アラートを有効にするには、[Enable Alert] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [Severity] ドロップダウン リスト ボックスから、アラートの重大度を選択します。
- ステップ 6** [Enable/Disable this alert on following server(s)] ペインで、このアラートを有効にするサーバの [Enable] チェックボックスをオンにします。

あらかじめ設定されているアラートについては、[Description 情報] ペインにアラートの説明が表示されます。

- ステップ 7** [Next] をクリックします。
- ステップ 8** [Threshold] ペインに、システムがアラートをトリガーする条件を入力します。
- ステップ 9** [Duration] ペインで、次のいずれかのオプション ボタンをクリックします。
- [Trigger alert only when below or over....] オプション ボタン：特定の期間（秒単位）に常に値がしきい値を下回るまたは上回る場合に限り、アラートがトリガーされます。秒数を入力します。
 - [Trigger alert immediately]：アラートがすぐにトリガーされます。

ステップ 10 [Next] をクリックします。

- ステップ 11** [Frequency] ペインで、次のいずれかのオプション ボタンをクリックします。
- [trigger alert on every poll]：ポーリングのたびにアラートがトリガーされます。
 - [trigger up to <numbers> of alerts within <number> of minutes]：特定の期間（分単位）内に、特定の数のアラートがトリガーされます。アラートの数と分数を入力します。

ステップ 12 [Schedule] ペインで、次のいずれかのオプション ボタンをクリックします。

- [24-hours daily] : アラートが 1 日 24 時間トリガーされます。
- [Start time/Stop time] : 特定の開始時刻と終了時刻の間のみアラートがトリガーされます。開始時刻と終了時刻を入力します。

ステップ 13 [Next] をクリックします。

ステップ 14 このアラートの電子メールを有効にする場合は、[Enable Email] チェックボックスをオンにします。

ステップ 15 このアラートでアラート アクションをトリガーするには、ドロップダウン リスト ボックスから、送信するアラート アクションを選択します。

ステップ 16 新しいアラート アクションを設定する場合、または既存のアラート アクションを編集する場合は、[Configure] をクリックします。

ステップ 17 新しいアラート アクションを追加するには、次の手順を実行します。

- a. [Add] をクリックします。
- b. [Name] フィールドに、アラート アクションの名前を入力します。
- c. [Description] フィールドに、アラート アクションの説明を入力します。
- d. 電子メール受信者を追加するには、[Add] をクリックします。
- e. [Enter email/epage address] フィールドに、アラート アクションを受信する受信者の電子メールまたは電子ページのアドレスを入力します。
- f. [OK] をクリックします。

[Action Configuration] ウィンドウに、追加した受信者が表示され、その [Enable] チェックボックスがオンになっています。



ヒント 電子メールの受信者を削除するには、その受信者を強調表示し、[Delete] をクリックします。選択した受信者が、受信者リストから削除されます。

- g. すべての受信者を追加したら、[OK] をクリックします。

ステップ 18 既存のアラート アクションを編集するには、次の手順を実行します。

- a. アラート アクションを強調表示し、[Edit] をクリックします。
選択したアラート アクションの [Action Configuration] ウィンドウが表示されます。
- b. 設定を変更し、[OK] をクリックします。

ステップ 19 アラート アクションの設定を終了したら、[Close] をクリックします。

ステップ 20 トレースのダウンロードが許可されていないアラートの場合は、[Alert Properties: Email Notification] ウィンドウで [Activate] をクリックします。

CriticalServiceDown や CodeYellow のようにトレースのダウンロードが許可されているアラートの場合は、次の手順を実行します。

- a. [Next] をクリックします。
- b. [Alert Properties: TCT Download] ウィンドウで、[Enable TCT Download] チェックボックスをオンにします。
- c. [SFTP Parameters Dialog] ウィンドウが表示されます。IP アドレス、ユーザ名、パスワード、ポート、およびトレースを保存するためのダウンロードディレクトリパスを入力します。SFTP サーバとの接続を確認するには、[Test Connection] をクリックします。接続テストに失敗した場合、設定は保存されません。
- d. [OK] をクリックして、設定を保存します。
- e. [TCT Download Parameters] ウィンドウに、ダウンロードの回数と頻度を入力します。ダウンロードの回数と頻度を設定すると、ダウンロードされるトレース ファイルを制限するのに役立ちます。設定されたポーリングが、頻度のデフォルト設定の基準となります。

**注意**

TCT Download を有効にすると、サーバ上のサービスに影響が生じることがあります。ダウンロード回数を多くすると、サーバのサービス品質に悪影響が生じます。

**(注)**

アラートアクションを削除するには、そのアクションを強調表示し、[Delete] をクリックして、[Close] をクリックします。

追加情報

P.8-8 の「関連項目」を参照してください。

Cisco Unified Presence ノードまたはクラスタ上のアラートの一時停止

特定の Cisco Unified Presence ノードまたはクラスタ全体で、一部のアラートまたはすべてのアラートを一時的に停止する必要がある場合があります。たとえば、Cisco Unified Presence を新しいリリースにアップグレードする場合、アップグレードが完了するまですべてのアラートを一時停止する必要があります。アラートを一時停止することにより、アップグレード中に電子メールや電子ページを受信しなくなります。Alert Central でアラートを一時停止する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 [System] > [Tools] > [Alert] > [Suspend cluster/node Alerts] の順に選択します。



(注) サーバごとの一時停止状況は、Cisco Unified Presence クラスタ全体のアラートには適用されません。

ステップ 2 クラスタ内のすべてのアラートを一時停止するには、[Cluster Wide] オプション ボタンを選択し、[suspend all alerts] チェックボックスをオンにします。

ステップ 3 サーバごとにアラートを一時停止するには、[Per Server] オプション ボタンを選択し、アラートを一時停止するサーバの [Suspend] チェックボックスをオンにします。

ステップ 4 [OK] をクリックします。



(注) アラートを再開するには、再び [Alert] > [Suspend cluster/node Alerts] の順に選択し、[Suspend] チェックボックスをオフにします。

追加情報

P.8-8 の「関連項目」を参照してください。

アラート通知用電子メールの設定

アラート通知用の電子メールを設定するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [System] > [Tools] > [Alert] > [Config Email Server] の順に選択します。

[Mail Server Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [Mail Server] フィールドに、電子メールの受信者の情報を入力します。

ステップ 3 [Port] フィールドに、メール サーバのポート番号を入力します。

ステップ 4 [OK] をクリックします。

追加情報

P.8-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

アラート アクションの設定

新しいアラート アクションを設定する手順は、次のとおりです。

手順

ステップ 1 P.8-2 の「[アラートの操作](#)」の説明に従って、Alert Central を表示します。

ステップ 2 [Alert] > [Config Alert Action] の順に選択します。

ステップ 3 P.8-4 の「[アラート プロパティの設定](#)」の [ステップ 17](#) ～[ステップ 20](#) を実行して、アラート アクションを追加、編集、または削除します。

追加情報

P.8-8 の「[関連項目](#)」を参照してください。

関連項目

- [アラートの操作 \(P.8-2\)](#)
- [アラート プロパティの設定 \(P.8-4\)](#)
- [Cisco Unified Presence ノードまたはクラスタ上のアラートの一時停止 \(P.8-7\)](#)
- [アラート通知用電子メールの設定 \(P.8-8\)](#)
- [アラート アクションの設定 \(P.8-8\)](#)